

# 神戸市会自民党会派で「会津若松スマートシティAiCT」を視察しました。 視察目的とその内容について報告します。

## 視察目的

東日本大震災後、会津若松市では市の代表的な企業 富士通の会津若松工場（チップ）が撤退、従業員とその家族2万人が800人に激減。大幅な人口減少に見舞われた。そうしたなかで国の震災後の復興支援として会津若松市に選定されたのが「デジタルシフトによるスマートシティ」であり、その先駆的な取り組みについて大いに関心を集めていた。このたび直接会津若松市に向き、その内容と進捗状況を把握し、神戸での活用を検討するための視察となった。

### 視察日程

- ・11月5日 16:00-17:45  
アクセント・イノベーションセンター 福島センター共同統括 中村彰二郎様  
内容：会津若松市におけるスマートシティの取り組みについて
- ・11月6日 9:00-10:30  
TISサービス事業統括本部 会津サービスクリエーションセンター長 岡山純也様  
内容：会津若松市における地域デジタル通貨について
- ・11月6日 10:30-12:00  
会津若松市 企画制作部 企画調整課 主任主事 高橋俊樹様  
内容：会津若松市における行政としてのスマートシティの取り組みについて



アクセント 中村さんの講演



講師の皆さんとともに

## 会津若松市でのスマートシティの取り組みについて（講演及び説明内容から） 資料は、アクセントの資料より

### 一市民主導のイノベーションが起こる会津創生8策を策定一

1. 一極集中から機能分散へ（自立・分散・協調）
2. 少子高齢化対策としてのテレワーク推進
3. 予防医療の充実のためのPHR（医療・介護・健康のデータを総合的に収集、一元的に保存）
4. データに基づく政策決定への移行（オープンデータ・ビッグデータ・アナリティクス）
5. 高付加価値産業誘致と起業支援
6. 観光・農業・製造業の戦略的強化と生産性向上
7. 再生可能エネルギーのシフトと省エネの推進
8. 産官学による高度人材育成

### 一会津若松市のプロジェクトの取り組み内容と実績、成果について一

会津若松市では市民中心のスマートシティ実現のため、個人情報についてはオプトイン（情報の利用についてあらかじめ許可を与えることの同意）を大前提に、市長と市議会が「データは市民のものだ」と宣言しました。そして、地方の在り方としては三方よしの社会（1. 市民・住民 2. 地域 3. 産業・企業のすべてがよしの社会）を目指しています。



会津若松市のこれまでの（2020年までの）実績として

- ・官民とわず関係交流人口が著しく増加。100団体
- ・プロジェクトに必要な人材を会津大学と育成。1000人
- ・スマートシティAiCTの実現（企業誘致オフィス）
- ・生産年齢人口が地元に着着。27社
- ・地元企業の生産性が向上。30%

地域特性を生かした注目されるプロジェクト・スマートシティ会津若松を立ち上げ、首都圏などのAiCT関連企業などの機能移転ニーズを踏まえ、受け皿としてオフィス環境や集積拠点を整備し、本格的な企業誘致、機能移転を実現（会津ICTビル[AiCT]）しています。そしてこのプロジェクトは今日現在も続いています。

### 取り組んでいる具体的な内容

#### 【防災について】

防災避難は、出張先や旅行先などどこにいても滞在先の地域で避難できるようマイハザードを推進、有事の際は位置情報をONにする。スマートフォンが誘導する。

#### 【予防医療について】

がん予防のためにDNAデータをオプトイン（情報の利用についてあらかじめ許可を与えることの同意）で提供してもらい、デンマークに1万人の医療データを送り、がん予防に生かそうと進めている。オプトインされた市民のPHR（患者の医療・介護・健康のデータを統合的に収

集、一元的に保存）をデータ化していればどこにいても個人医療データが医者として見える。AI診断、オンライン診療を進め、若い医者が働きやすくなる医療環境を作る。これにより医療費削減につながる。

病院の滞在を15分にするプロジェクトを2021年3月に立ち上げる。

チャットにより事前問診、診療予約で診療時間前に事前連絡、病院までのルート

案内、診療後の支払いは待ち時間なしのデジタル

キャッシュ、処方箋連携で薬は宅配で届く。医者も音声

で自動カルテに入力される。医者はカルテ入力事務から

解放される。スパーシティ特

区で実行予定。



TIS岡山さんの講演

#### 【教育について】

会津若松の小学校から中学までの32校と市立幼稚園も含め、学校での出来事、学校便り、学校のイベント、災害緊急情報などが「あいづっこ+」アプリ上ですべて閲覧が可能。学校と保護者をつなぐツールができており、HPも共通化し各学校を見える化し、学校同士が競い合うため質が向上。

#### 【観光について】

観光ホームページ VISIT AIZUを立ち上げ、それぞれの国々の文化、慣習、食生活などを調査研究の上、それぞれの国の人々が興味を示す観光ホームページに特化した。会津若松17市町村全部の観光スケジュールと合わせ、イベントを周遊できるようにした。結果5.3倍までビューが増加。

#### 【農業について】

農業を改革し、移動物流を見直し、農家とお店と直結し、フードロス削減、農業の生産性を上げた。最低農家の収入が年収1500万円目標。

#### 【地元中小企業について】

会津の73社の中小企業を30%成長させることを目標に、大企業と同じクラウドシステムをID課金利用でデジタル化への負担を軽減し効率化へ。28%生産性UP。給料28%UP。

#### 【行政について】

3年後庁舎を建て直し、行政受付カウンター窓口を廃止、すべてデジタル化に。時間外、休日はLINEのチャットボットで対応。

ICT企業誘致として、家賃2年間無料で体験型サテライトオフィスで27社400人。

#### 【地域デジタル通貨について】

地元商店を応援するため、手数料のかかる、大手スマホ決済やクレジットカードを使わず、手数料が要らないデジタル地域通貨を作る。POSシステムと決済情報を紐づけることにより、誰が、何を、いつ、どのくらい購入したかがわかり、次の支援の政策に結びつく。

以上、講演内容や、議員側の多くの質問に対しお答えいただいたことを簡条書きにまとめました。紙面の都合上略した部分があることをお許し下さい。